

コ ン テ ン ツ	PMCC 平成15年度 スタートにあたり P2M人材育成プログラム開発事業 スタート P2M新春講演会 開催される 第2回PMS資格試験・・572名が受験 P2Mクラブ 資格継続学習基準 発表 平成15年度 第1回PMS講習会 受講生募集中 早稲田大学でP2Mオープン講座 開催 フランスリール大学院でP2M特別講座開始	vol4 ----- 2003.4	PMCCニュースレター
			特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター

PMCC 平成15年度 スタートにあたり



PMCC 石倉事務局長 昨年4月に当プロジェクトマネジメント資格認定センターが設立されて丁度一年が経ち、会員数も93社(含む個人)に発展しました。さらに、PMS講習会では計458名が受講し、PMS資格試験では1,208名が挑戦されるなど1年目のすべり出しとしては、予想を超える順調さであったと思います。

また昨年10月には、世界各国からプロジェクトマネジメントのオピニオンリーダー達が東京に集まり、グローバル・プロジェクトマネジメント標準作成に向けての会合を開催支援することができ、P2Mのグローバル標準に向けて世界との協調も進めてまいりました。

この間、会員企業、エンジニアリング振興協会、経済産業省をはじめ多くの方々にご賛同、ご支援を載ったことにつき深くお礼を申し上げます。

新年度の平成15年度についても初心を忘れず、当センターのミッションである「高度な視点、広い視野を有するプロジェクトマネジメント人材教育とP2Mの発信、啓蒙・普及」を進めるために、日本内外でのさらなる努力をして参りたいと考えております。

また本年は、これまでのPMS講習会、試験を国内主要拠点に発展させるとともに、早稲田大学(6月)、明治大学(9月)さらに海外ではフランス、グランゼコールESCリール大学院(7月)でのPMS講座も予定しており、国内外にP2Mの意義と価値を発信し続けていく所存です。

幸い新年度は、日本機械工業連合会、日本自転車振興会からの新しい受託事業が内定し、手持ちの本年2月に経済産業省から受託した人材教育プログラム開発事業もあわせて3億円を超える受託もあり、当センターの更なる発展に向けての努力をしたいと考えております。

P2M人材育成プログラム開発事業 スタート

経済産業省の平成14年度補正予算事業「創業・起業促進型人材育成システム開発事業」において、「P2M人材育成プログラム開発事業」として3億円が予算化されました。これは、業種・分野横断的な視点から高度人材育成を加速し、産業競争力強化、企業・産業の付加価値の拡大、創業・起業促進を図ることを通じて、日本の経済活性力の持続的な向上に資することを目的としたものです。

PMCCでは、経済産業省の委託事業として、P2Mの実証型教材開発を行い、実証モデルづくりを実施し、さらに必要な調査も併せて行なってまいります。これに伴いPMCCでは、教材ツール開発を担当する「開発部」、実証用教材ツールを用いたモデル事業を担当する「モデル実証部」、実用モデルの推進・調査を担当する「調査部」を新たに発足させ、P2M人材育成プログラム開発事業に取り組んでまいります。

会員・P2Mクラブの皆様には、ご理解とご支援をお願いしたいと存じます。

九州地区でモデル研修会を実施

具体的取組みのスタートとして、福岡でモデル研修会「P2Mリーダー育成研修会」を実施いたします。日程は、3月29日(土)～4月27日(日)までの8日間コースです。

研修会に先立ち3月20日(木)にオリエンテーションを行い、52名に参加いただきました。

この九州地区モデル研修会を契機に、今後全国で広くモデル研修会「P2Mリーダー育成研修会」を実施する予定です。皆様方の地域での積極的なご参加・ご協力をお願いいたします。



オリエンテーション風景

P2M新春講演会 開催される



ウィリアム・ダンカン氏を招聘した「P2M新春講演会」が盛況のうちにこなわれました。

2月4日(火)関西経済連合会会館ホールでは、150名の参加者があり、ウィリアム・ダンカン氏の「世界のPMの潮流」、神戸大学 延岡教授の「日本企業の競争力」、大阪大学大学院 浅田教授の「日本産業界変革のカギ・P2M」の講演に耳を傾けました。

2月7日(金)東京 アジュール竹芝では、300名を越す参加者があり会場は熱気に包まれました。ウィリアム・ダンカン氏のほか、一橋大学 米倉教授の「ネオIT革命・日本型モデルが世界を変える」、PMCCプラットフォーム委員会 武富委員長の「新しいプロジェクトマネジメント - P2Mのパラダイム」の講演がありました。

第2回 PMS講習会 終了



第2回PMS資格試験に向けたPMS講習会(8日間コース)が、昨年12月14日からスタート。2月15

日に全日程が無事終了しました。200名を越す受講生は厳しい寒さの中、熱心にP2Mの学習に取り組みました。

第2回 PMS資格試験・・・572名が受験

3月16日(日)に第2回PMS資格試験が実施されました。今回は、東京会場(工学院大学新宿校)と京都会場(PHP研究所京都本部)の2会場で実施されました。受験者は572名で多数の合格者が期待されます。合格発表は4月23日(水)、本人通知及びPMCCホームページで発表されます。

P2Mクラブ 資格継続学習基準 発表

2月19日(水)第2回「P2Mクラブ会員のつどい」が開かれ、PMS資格継続学習基準について発表されました。資格継続学習基準は、PMの諸活動実績について、これを定量的に把握するためCPUと称するポイントを設け、PMS資格者に5年間で規定のポイントを取得するようにし、資格認定更新の条件とするものです。さらに、PMS資格者に



対し、資格継続学習による実践・経験への展開、プロジェクトマネジャー(PMR)資格・プログラムマネジメント・アーキテクト(PMA)資格への挑戦、および「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック(P2M)」の普及・啓蒙・教育訓練への関与を期待し、これら活動や貢献もCPU更新の対象として評価します。

PMCC	
プロジェクトマネジメント・スペシャリスト (PMS)	
資格継続学習基準について	
本文	
1. はじめに	P 1
2. 資格継続学習の視点	P 1 - 2
3. CPUポイントの取得	P 2
4. 運用	P 2 - 3
本文付属資料	
・別紙 1: 継続学習形態、CPUポイントの総括表	P 4
・別紙 2: 継続学習形態、CPUポイントの表	P 5 - 7
・別紙 3: CPUポイント申請および資格継続の手続き表	P 8
添付: PMS資格CPU取得モデルケース	P 9 - 10
申請書式等	
・「継続学習の実施」から「CPU記録登録証明書の受領」まで	P 11
・CPU記録簿・CPU記録登録証明書	P 12
・プロジェクト実績活動報告書	P 13
・プロジェクトマネジメント教育講師 実施報告書	P 14
・PM団体活動報告書	P 15
・プロジェクトマネジメント講習会受講報告書	P 16

平成14年度下期 理事会開催される

2月18日(火)、平成14年度下期 理事会が開催されました。席上PMCCから平成14年度下期の活動報告が行なわれ、続けて平成15年度の活動方針の説明があり、理事会の承認を得ました。

PMCC 新橋分室 5月オープン

5月に研修ルームを併設したPMCC新橋分室がオープンします。積極的なご活用をお願いいたします。
住所: 東京都港区新橋2-6-1 8F (JR新橋駅から徒歩2分)

平成15年度 第1回PMS講習会 受講募集中

平成15年度 第1回PMS講習会が、平成15年5月9日（金）～7月5日（土）の全8日間実施されます。今回は東京会場・京都会場・大阪会場の3ヶ所で開催されます。申込受付期間は下記のとおりです。

- ・東京会場：平成15年3月17日（月）～4月18日（金）
- ・京都会場：平成15年3月17日（月）～4月15日（火）
- ・大阪会場：平成15年3月17日（月）～5月15日（木）

なお、本講習会は、厚生労働省教育訓練給付制度指定講座に認定されましたので、雇用保険加入期間等の条件を満足する受講修了者は、ハローワークに申請することにより、受講料の40%が給付される予定です。

早稲田大学でP2Mオープン講座 開催

PMCCではP2Mを広く社会に普及させるため、社会人を対象に「社会人のためのプログラム・プロジェクトマネジメントコースのオープン講座」を経済産業省の後援のもと早稲田大学と共催で開催いたします。広く皆様のご参加をお願い申し上げます。

講座名：社会人のためのP2Mコース
- 将来の経営幹部養成のためのP2M -

主催者：早稲田大学アジア太平洋研究センター/PMCC

後援：経済産業省産業製造局

日時：2003年6月14日、6月21日、6月28日の3連続土曜日

場所：早稲田大学アジア太平洋研究センター

申込先：PMCC（E-mail：admi@pmcc.or.jp）

受付期間：2003年4月10日（木）～5月12日（月）まで

会員企業紹介シリーズ

大阪ガス(株)様

P2Mを社内研修に活用

昨年9月に京都で行なわれました「P2Mセミナー」に参加しました。この時、P2Mを大阪ガスの社内研修にも活用できないかと思い、PMCCに相談したところ、積極的なご支援を頂き、3月12日～13日の2日間、開発研究部研究リーダー25名を対象に社内研修を実施しました。

研修にあたり、講師の芝尾芳昭氏に次の要望を提案し、カリキュラムを作成していただきました。

- ・研究開発を中心としたP2Mの具体的な手法
 - ・P2Mはどのような条件（ケース）で有効であるか？
 - ・PMがうまく機能するための組織・制度・企業文化は？
 - ・逆に上手くいかない場合は？
- 受講生からは、説明ロジックが明快

で実践的（使えそう・役に立ちそう）との評価を得ました。2日目の午後からは、研修内容を踏まえ新組織の戦略に関するフリーディスカッションも実施し、内容の濃い研修でした。

大阪ガスとしましても、PMCC関西委員会にも参画し、本年5月の関西地区におけるPMS講習会に会場を提供するなど、関西地区におけるP2Mの普及・啓蒙の中核企業として貢献していきたいと考えております。

P2M標準ガイドブック 新装版発行

4月より「P2M標準ガイドブック・新装版」が全国の書店で販売されることになりました。新装版はより使い易くするためにB5版で上・下巻の2冊に分冊しました。また価格もお求め易い価格にいたしました。発行はPHP研究所で、上巻は「プログラムマネジメント編」（価格：1,200円税別）、下巻は「個別マネジメント編」（価格：1,600円税別）となっています。



フランスリール大学院でP2M特別講座開始

PMCCはフランスリール大学院との協定により、本年6月下旬にリール大学院パリ校において、1週間のカリキュラムによるP2M特別講座を開くことになりました。

講座は7月21日から連続5日間で、毎日午前と午後の2講座（1講座3時間）で、合計10講座。講師は千葉工業大学の小原教授をはじめ、早稲田大学木下教授、筑波大学大学院寺野教授、大阪大学浅田教授、千葉工業大学新井教授のほか、PMCC講座の講師やベンチャー企業社長等で多彩な陣容です。講義の内容は、P2Mのプログラムマネジメントが中心で、理論と実践を含んだもので、受講者はリール大学院の世界各地からの学生や企業人です。この講座を通してPMCCは、P2Mの欧州での認知、浸透、宣伝をはかることができることとなります。

P2M豆本を発行

PMCCでは、P2Mの特長等をわかりやすく解説した小原重信氏監修による「P2M豆本」を発行しました。Q&A等も盛り込んでおりますので、P2Mの普及・啓蒙にご活用ください。



PMCC広場

～ PMS資格試験合格者の一言～

私がP2Mを知ったのは、父でもある当社の社長からでした。「P2Mの考えは会社経営にも通じるものがあるから、将来経営者になろうとしているお前も勉強すべきだ」と勧められ、また私もその内容に興味を持ったので、PMSの勉強を始めました。勉強をするにつれて、「P2Mの考えは会社経営にも通じる点がある」と父が言ったことの意味が分かってきました。

それは、P2Mがプロジェクトを「もの造り」と捉えるのではなく、「仕組み造り」と捉えているからだと思います。例えば、戦略マネジメントや、ファイナンスマネジメント、組織マネジメントなど、まさしく会社経営に必要なノウハウが詰まっていると実感しました。また、現在私は会社で、社長の出した方針を具体化する方策を考えることもしていますが、その際にもP2Mから学んだことが役立っています。昨年9月に、幸いにもPMSの資格が取得できました。そして、PMSの資格取得を通じて素晴らしい方々と知り合うことができました。知識だけでなく多くの素晴らしい出会いを得ることが出来たことも、私は大変うれしく思います。また、これからも定期的にPMCCの会員の集いに等に参加し、更に色々方々と知り合えることを楽しみにしております。

今後は、「さすがPMSを取得しただけのことはある」と言われるような実績を出していきたいです。それがPMSの価値をより高めていくことになると思っています。

キャッスルコンピューター(株) 小口 慶子 様

平成15年度第1回PMS講習会募集のマスコミ広告

ITプロフェッショナル(4月号) 日経新聞(3月14日)



プロジェクトマネジメントの歴史とその推移

前回は「使命は何か」、「目的は何か」、「目標は何か」を明確に定め、目標達成に向けて、コスト、工程、品質を管理する目標達成型の第1世代PMの話をしました。

1980年代に入ると情報産業が盛んになりました。情報産業の多くは受注業務でしたが、受注業務の成功率はたいへん低いという結果となりました。米国では情報産業にPM手法を取り入れ、成功率を高めることを考えました。PMI(米国PM協会)は多くのPM経験者を集めて、どの業界でも採用できるPM知識体系(PMBOK[®])を発表しました。私たちはPMBOKを第2世代のPMと呼ぶことにしています。

では第2世代のPMは第1世代とどのように違うのでしょうか。その第1はPMをプロセスとして整理しました。わかりやすく言いますとPM業務を「立ち上がりのプロセス」、「計画のプロセス」、「遂行のプロセス」、「コントロールのプロセス」、「終結のプロセス」とし、プロジェクトの開始から終了までの手順を示し、PM経験の少ない人々の業務遂行を容易にする手法を開発しました。

第2の点はPMを「9つのPM知識エリア」に分割し、PM業務遂行を支援する知識・スキル・手法を提供していることです。第1世代では「スコープ」、「工程」、「コスト」、「品質」の4つのマネジメントを行っていたものに「組織」、「コミュニケーション」、「リスク」、「調達」それに「統合」という5つのマネジメントが追加されました。

(芝 安曇)

PMCC
News Letter
vol14
2003年4月発行

編集・発行 / 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目4番6号
TEL : 03-3502-4405 (代表) FAX : 03-3539-1741